飛田茂雄著

いま生きている英語

大辞典でも収めきれない情報

中公新書

1364

中公新書 1364

飛田茂雄著

いま生きている英語

大辞典でも収めきれない情報

中央公論社刊

飛田茂雄（とびた・しげお）

1927年（昭和2年），東京都に生まれる．57年，早稲田大学大学院文学研究科博士課程を修了．青山学院大学文学部助教授，小樽商科大学商学部助教授などを歴任．現在，中央大学総合政策学部教授．専攻，英語，英米社会文化論．日本ヘンリー・ミラー協会会長．

著書『探検する英和辞典』（草思社）
『私が愛する英語辞典たち』（南雲堂フェニックス）
共編『ランダムハウス英和大辞典（初版，第2版）』
『プログレッシブ英和中辞典（第3版）』（小学館）
翻訳 ジョーゼフ・ヘラー『キャッチ＝22』（早川書房）
カート・ヴォネガット『母なる夜』（早川書房）
ジョーゼフ・キャンベル『神話の力』（早川書房）
同 『時を超える神話』（角川書店）
トバイアス・ウルフ『ボーイズ・ライフ』（中央公論社）
同 『危機一髪』（彩流社）
カズオ・イシグロ『浮世の画家』（中公文庫）
ジョン・ホークス『人食い』（彩流社）ほか．

いま生きている英語（いまいきている えいご）
中公新書 *1364*
©1997年
検印廃止

1997年6月15日印刷
1997年6月25日発行

著者 飛田茂雄
発行者 笠松 巌

本文印刷 三晃印刷
カバー印刷 大熊整美堂
製本 小泉製本

発行所 中央公論社
〒104 東京都中央区京橋2-8-7
電話 販売部 03-3563-1431
編集部 03-3563-3666
振替 00120-4-34

◇定価はカバーに表示してあります．
◇落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛にお送りください．送料小社負担にてお取り替えいたします．

Printed in Japan ISBN4-12-101364-6 C1282

はじめに

英語はもともと民衆が育ててきたエネルギーに満ちた言語である．11世紀の後半に北フランスのノルマン人が英国を征服したあと，新支配階級である王侯貴族がこぞってフランス語を使ったにもかかわらず，庶民は頑固に英語だけを使い続けた．そのなかにはすでにドイツ語とオランダ語や，スカンディナヴィアおよびケルト民族の言語などが融合していたが，彼らはその言語体系のなかにフランス語からアラビア語に至るまで大量の語句をどんどん取り入れた．あのシェイクスピア劇の偉大さのひとつは，宮廷詩人の作った古典劇風のドラマとは違って，基本的には〈同時代に生きている民衆〉の活気にあふれる（ときには猥雑な）言葉を使って，彼らの心情をみごとに表現したところにある．

17世紀に英国の植民者がアメリカに渡ってから，いわゆる〈新大陸〉の英語は移民たちの母国であるヨーロッパ，ロシア，アジアの諸言語，各地のアメリカインディアンの言葉，黒人奴隷のクレオール英語，ユダヤ人のイディッシュ語などを貪欲に取り入れ，その多くを英国を含む諸外国に逆輸出した．世界広しといえども，英語ほど民族的，文化的な多様性を持った言語はないだろうし，（これは比較が困難ではあるけれども）おそらく英語ほど表現力の豊かな言語もまれだろう．

感情の小さなひだまで表現できる自然言語を国際語とし

て使用するしかない今日，英語以上に適当な言語はない．冷戦のさなかでさえ，ソ連や中国の航空管制の用語は英語であった．1979年以来，中国で最も優秀な25万人以上の青年が経済的なハンディキャップにもかかわらず海外に留学し，うち半数は米国で学んでいる．国際政治の舞台で，明らかに反英米の立場をとっている国の首脳までがしばしば英語で討論をしている．世界各地の武装ゲリラ組織までが，インターネットのホームページで英語のメッセージを送り続けている．国際経済，科学技術，情報通信などの分野で電波を通じて流される言語は，インターネットが始まる前からすでにその80%以上が英語であった．世界中が，米国や英国に対する好き嫌いの感情とは別に，そういう道を選択したのである．今後の国際社会においてこの国際語をマスターする必要性は，高まりこそすれ，低下する可能性はまったく見えない．

にもかかわらず，25年くらい前から「日本の社会は英語偏重だ」という批判をよく耳にしてきた．もしそれが，受験英語偏重の教育に対する批判や，奇妙なカタカナ語の氾濫に対する怒りや，軽薄な英会話ブームに対するいらだちなどから出ているのならば，うなずける．しかし，「行き過ぎた英語教育は日本人の主体性を失わせる」式の発想から出ているとすれば，誤解もはなはだしい．だいいち，日本の英語教育は「行き過ぎている」どころか，授業時間の点からも質の面からもはなはだ不十分である．観光旅行ではなんとか通じる会話力を身につけた人が多くなったのは事実だが，本格的に話す聞く，いわんや書くということになると，実力不足がもろに露呈してしまう．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「会話はにがてだが，読むほうならかなり自信がある」という学生は多いけれども，TOEFL のうち読解力テストの得点も非常に低いという事実を見ると，おいそれとは信用できない．『国民生活白書（1996年）』でも取り上げられたが，日本人の TOEFL 総合点平均（常に490点前後）は，日本人と同様の率でこの試験を受けている中国や韓国の青少年のそれよりもはるかに劣っている．理科や算数の国際テストでは常にトップクラスの日本が，TOEFL では世界154カ国のなかで139位（1995年）というのは，その責任を負うべき英語教員の私が言うのも妙だが，異様な現象である．

大学を出た社会人に目を向けても，英字新聞や英語のニュース雑誌を楽に読みこなせる程度の実力の持ち主は残念ながらまだまれだと思う．語彙が乏しいだけでなく，英米で日常よく使われている（たいていは基本語から成る）慣用句に弱く，背景的な知識が乏しいからであろう．

今後その対策としては，現在各レベルの学校で進められている英語教育の改善をもっと大胆に推し進める必要がある．私の属している大学の学部でも4年前の創設以来かなり思い切った改革を試みているが，この本では英語教育論にはほとんど触れない．すでに伝統的な訳読中心の英語教育を受けてこられた方々に，(1)「いま生きている英語」がどんなものかの実態を見ていただき，(2)ご自分の語彙を増やそうとするときに，特に注意すべきことを指摘し，(3)英語で与えられる情報をよく理解するために，米国社会の仕組みを一部だけでも掘り下げて見ていただきたいと思う．

私はイギリス英語についても触れるが，中等学校で教え

られている英語はアメリカ英語だし，国際語として通用している英語の実勢から判断しても，重点をアメリカ英語に置くことはご了承いただけるのではないかと思う．そして，アメリカ英語の知識を深めるためには，新聞雑誌で頻繁に取り上げられる政治や社会問題の内容を十分に把握する必要があることも，納得していただけるだろう．

もちろんこの小さな本で取り上げるのは，どの問題に関しても初歩的な例だけに限られるが，それらが現代アメリカ英語の生態を深く知るうえで，多少の手がかりになればと願っている．

なお，本書では可能な限り未発表の英語情報を紹介するよう努めたが，基礎的な語句の説明と第5章のなかで，拙著『探検する英和辞典』（草思社，1994年）に書いたことを（表現や例はできるだけ変えたが）部分的に繰り返すことは避けられなかった．ご了承をいただきたい．

＊　＊　＊

1．本書では「英語を母国語とする諸国および諸地域の人々」のことを，スペースの節約のために「英米人」と書いた．英米以外の英語圏諸国とその国民を軽視しているからではない．

2．新聞の発行年月日は10-3-90のように略記した．これは1990年10月3日という意味である．

目　次

はじめに　i

第1章　英語は絶えず変化している……3

I．言語の〈変流〉を堕落と決めつけない　3

II．現代英語の変化を敏感にキャッチする　5

1．たとえ編集長に逆らっても　5

2．キバを抜かれた terrific　6

3．dove と書いてもハトではない　7

4．グラジオラスは1本だけならグラジオラ？　8

5．こんなことが新聞によってなぜ違う？　10

6．良心的な先生ならば　11

7．愚劣と決めつける側の愚劣さ　13

8．シェイクスピアだって悪文家？　15

9．I was diagnosed as having the flu. と言える？　15

10.「サヌィッジ」と言って注文しては？　16

III．学校で教えられなかった文法　17

1．I convinced him to stop drinking. は間違い？　17

2．どっちが不自然？　18

3．エブリマン氏はひとりではない　21

4．互いに見合わす顔と顔　21

5．I absented myself from... と学校で習ったが　22

6．I'm sorry to be late. が間違いだって？　23

7．これは難問！　イエスかノーか？　25

8．along with の場合は？　29

9．a nice place to live in の in は必要か？　29

10. オックスフォード辞典にさえ不統一が　30

第2章　語彙をもっと豊かに……33

I．覚えても使いこなせない単語　33

1．赤鉛筆かなにかでマークして　33

2．2,500語を駆使することさえできれば　35

II．語彙を増やすには　38

1．まず慣用句に強くなる　38

2．文章を読みこなすために必要な語　43

3．大事な「準基本語」とは　46

4．新聞用語にも慣れておく　49

5．一見やさしい語句をなめてはいけない　50

第3章　頼りは英和辞典だが……57

I．英語辞典を毎日欠かさず引く　57

II．質のいい新辞典を買い求める　58

III．情報の量ではもちろん大辞典　59

(A) 中辞典に入れたい情報　61

(B) 大辞典に入れたい情報　66

(C) 収載するか否かを慎重に考える　74

IV．軽視できない英和中辞典の効用　82

第4章　確実な単語の知識を……85

I．まず一語一義主義を捨てる　85

1．米国の村にかかしは似合わない　85

2．親兄弟を親類とは言わないのに　86

3．口あたりがよくて味気がないとは？　87

4．「負かす」か「負ける」か？　88

5．「はずかしめる」か「はずかしめを受ける」か？　89

6．wistful look は「ものほしそうな顔」だって？　90
7．米ドル紙幣も硬貨なのか？　90
II．日常語をしっかりと理解する　91
1．much fewer の代わりに many fewer と言えるか？　91
2．more than two glasses は「3杯以上」か？　92
3．drunk driving と drunken driving は違うのか？　94
4．freeway は「無料高速道路」か？　96
5．Beltway politician とは？　97
6．日本でパジェロは RV 車だが　98
7．タイヤを蹴とばしに行く前に　98
8．遠くにあっても neighborhood　100
9．ダウンタウンは下町か？　102
10．アップタウンはどこにある？　104
11．mailbox のフラッグ　105
12．封筒の左上に書くのは差出人の住所か？　106
13．「6月が真夏」という感覚　107
14．おのれの影を見るリス　108
III．類語の意味の違いに注意　110
1．applicant と candidate　110
2．baggage と luggage　111
3．embryo と fetus　112
4．fanny pack と pouch　113
5．fat と obese　114
6．girlfriend と friend　115
7．know と learn　116
8．upstage と downstage　117

第5章　知っておきたい名文句の例 ……119

Catch-22　120
Look, no hands!　122

Now you see me, now you don't. 123
What's good for the country is good for GM. 124
business as usual 125
Frankly, my dear, I don't give a damn. 127
Nice guys finish last. 127
The opera ain't over 'til the fat lady sings. 129
Sacred cows run in herds. 131

第6章　現代の米国を知るキーワード……133

I．あまりにも多くの顔を持つアメリカ　133
1．2つの「北アメリカ」 134
2．「西部」も「北西部」も2つずつある？　135
3．デラウェアよ，どこへ行く？　138
4．米国の黒帯や白帯　139
5．黒人はみな African-Americans か？　141
6．白人の英語教師はまずエボニックスを学べ　142
7．Native Americans ってだれのこと？　145
8．「ヒスパニック」という人種がいるのか？　146
9．米国の公用語はもちろん英語？　148
II．政治　150
1．選挙権があっても投票できない　151
2．大統領はなぜ火曜日に選ばれる？　152
3．現職が強いのは米国でも同じ　154
4．サッカー・ママは浮気だろうか？　155
5．猟銃結婚させられた大統領　156
6．分裂した大統領と渋滞国会　157
7．政治家と政治屋，どこが違う？　160
8．ほんとうの実力者は特別利益団体　161
9．太ったネコが釣る大魚　162
10．マカレナを踊った国連大使　164

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

11. 切れ味のいいサウンドバイト　165
12. いまどきなぜ「近東問題」？　166
III. 法律――連邦，州，郡，市などの関係　168
1．速度制限なしの州もある　168
2．モンタナ州では売上税がゼロ！　169
3．O・J裁判が教えてくれたこと　170
4．陪審員は12人と決まっている？　173
5．なぜ州の裁判所で？　174
6．知ってるつもりのストーキングだが　176
7．州の長官たち　179
8．いまの日本人にはなじみのない郡役所　180
9．郡にも「首府」がある　182
10.「保安官」の正体は？　182
11. サンフランシスコの場合　184
12. 市警と州警の協力は可能か？　185
13. jail と prison, どう違う？　186
14. いまどきチェーンギャングとは　189
IV. 教育　191
1．日本にはない学区自治体　191
2．ハイスクールを出なくても大学に入れる　192
3．college は university より格が下？　193
4．男女別学の大学は全米に81校　194
5．「総長」と「学長」の区別をはっきりさせて　195
V. 社会福祉と保健医療　197
1．「エンタイトルメント」とは？　197
2．紛らわしい「メディケア」と「メディケイド」　198
3．共和党保守派が目のかたきにする給付金　199
4．急成長している HMO に注目　200
5．貧しいからこそ必要な健康保険なのに　203
6．大学に付属病院はなくても　205

付録 米国の50州 206
インディアン居留地 209
どの州にも属していない米国領 210
結びと感謝の言葉 214
語句索引 218

Illustration copyright © 1997 by Chris Wood

いま生きている英語

第１章　英語は絶えず変化している

Ｉ．言語の〈変流〉を堕落と決めつけない

言語は生きている．まるで大木のように生きているから，どんどん育つ細胞もあれば，死滅する細胞もある．年じゅう生まれては，その一部が生き残っていく流行語や俗語や新語はとても目立つが，もっと根幹の部分である綴り，発音，語義，語法，文法などにもしばしば不可逆的な変化が起こって，先人が守ってきたルールを無効にしているのである．

こういう言語の変化は，度を越すと国や民族の伝統的な言語文化を損ない，わずか半世紀前の国語でさえ読めないといった状況を作り出すおそれがあるから，できるだけ伝統的なルール（以下〈規範〉と呼ぶ）を尊重すべきである．しかし，もうひとつの態度も必要だろう．それは，言語のあらゆる変化を一種の堕落と見なして嫌ったり恐れたりするのではなく，新しい語句や語法が伝統的な言語文化のなかに受容できるものかどうかを静かに見守る態度である．表向きこの２つの態度（規律と寛容）は矛盾しているかのように見えるが，両者のバランスがとれていないと，軽く

時流に流されたり，逆に，言語の正常な成長を一時的にもせよ阻害するおそれがある．

もともと言語的な規範は，あまりにも恣意的な語句や語法の蔓延を防ぐ役割を果たしているが，民衆が持っている言語機能のなかには，「単純化への志向」，「多用による意味の拡大と軽薄化」，「新奇なものを求める欲望」，「リズム感覚」，「遊び心」など，多くの必然性を持った要素（法則性と言ってもいいだろう）が強く働いているようだ．そういう言語の必然的な変化を〈変流（drift）〉と呼んだ言語学者がいる．民衆のあいだでもはや不可逆的な慣用として定着しつつある新しい語法や文法は，その意味での変流の結果かもしれない．日本語のラ抜き言葉はその典型的な例だろう．いまの青少年の圧倒的多数が，そして年配の大学教授や作家や，一部の放送関係者までが「枕を高くして寝れない」，「これ，まだ着れるかしら」，「その会に出れない」などとやっている．「眠ることができる」を「眠れる」と言うのだから「寝ることができる」も「寝れる」でいいとか，「切ることができる」が「切れる」なら，「着ることができる」も「着れる」でいいといった類推が意識下で働いて，五段活用だの，下一段活用だのといった文法の規則を乗り越えようとしているのではなかろうか．

私は言語に関しては基本的に保守的で，いまでもラ抜きは活用の規則からの逸脱だと自覚し，できるだけ避けるよう自戒している．しかし，ラ抜き語法が，もし阻止できない変流の結果だと察知できた場合には，それをむやみに堕落と決めつけることをしない．言語はどの時代にあっても，高齢の知識人から見れば許し難い気まぐれ（arbitrary）な

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com